

女性のスポーツ指導者キャリアパスの検討 － コーチング効力感に着目して －

町田萌¹⁾, 荒木香織²⁾, 木田京子³⁾

¹⁾順天堂大学

²⁾兵庫県立大学

³⁾園田学園女子大学

笹川スポーツ研究助成 「研修奨励の会」

2014/04/25

女性スポーツ指導者の育成

- 女性アスリートの活躍, 「スポーツ基本法」で…
 - 女性のスポーツ参加への関心が高まっている
 - 女性のスポーツ指導者のキャリア発展を促すことは, スポーツ振興にとって重要な課題!

- 男性と女性のスポーツ指導者の育成は異なる
(Everhart & Chelladurai, 1998; Greenhill et al., 2009; Machida et al., 2012; Moran-Miller & Flores, 2011)
 - 男性および女性のスポーツ指導者の育成の方法を探る必要性

コーチング効力感の スポーツ指導者育成における役割

3

＝「スポーツ選手の指導に関する自信」

- 戦略
 - 動機づけ
 - テクニック
 - 人格形成
- 指導者の実際のコーチング, モチベーションに関係
 - スポーツ指導者育成プログラム・教育の指標に

(Feltz et al., 1999)

コーチング効力感の スポーツ指導者育成における役割

4

- コーチング効力感が, アシスタントコーチ, 現役アスリートや体育学専攻学生の, スポーツ指導をする, もしくは継続することに対する興味や意志に関係

⇒ コーチング効力感を育てることはスポーツ指導者育成への第一歩！

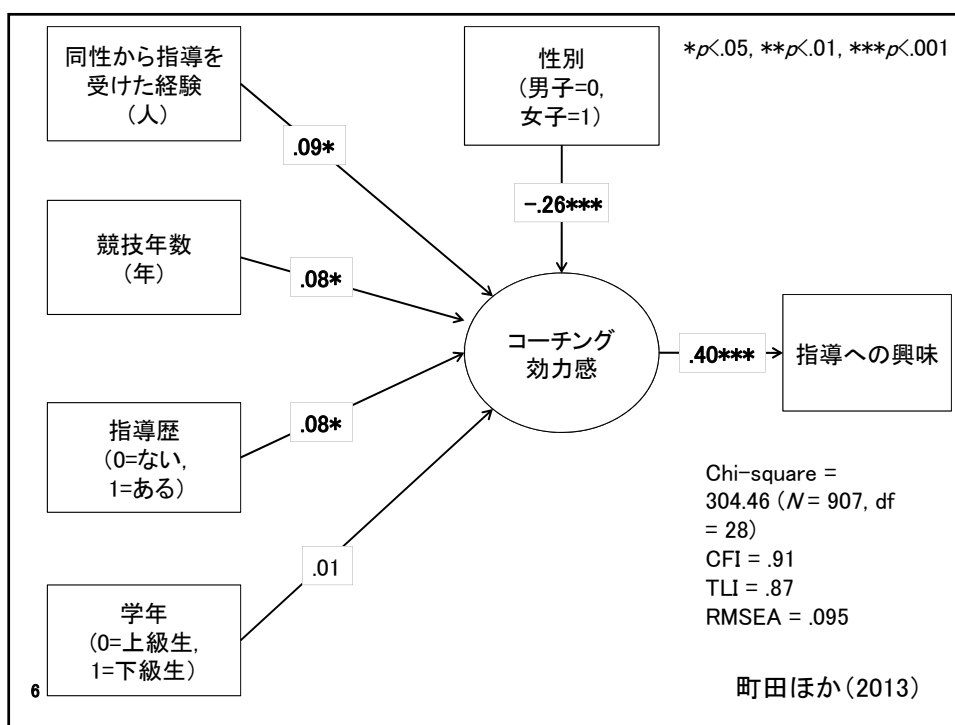
(e.g., Machida et al., 2013; 町田ほか, 2012, 2013; Moran-Miller & Flores, 2011)

コーチング効力感を育てるには？

5

□ コーチング効力感の情報源??

- 指導経験, 競技歴など (Feltz et al., 1999)
- 体育学専攻学生において, 男子と女子ではコーチング効力感が女子の方が低く, その男女間のコーチング効力感の差が, スポーツ指導への興味にも関連していることが示唆された (町田ほか, 2012).



6

コーチング効力感の情報源

7

- ソーシャルサポート
- ワークライフバランス
- 性差別への意識
- 指導に費やす時間
- 指導人数
- 競技歴
- 指導歴
- 同性の指導者から指導を受けた経験
- 同性の指導者との指導経験
- 指導者講習会への参加頻度
- 報酬の有無

目的

8

- 本研究の目的は、コーチング効力感と環境および個人要因の関係、さらにコーチング効力感とそれに関係する要因の男女間の違いを探索的に検討し、女性のスポーツ指導者の経験およびキャリアパスについて理解することであった。

方法 - 調査対象者 -

9

- スポーツ指導者: 328名
 - 平均年齢: 36.88歳 ($SD = 10.79$)
 - 男性($n=258$), 女性($n=70$)
 - 教員($n=130$), スポーツ協会職員($n=8$), 専属スポーツ指導者($n=26$), 会社員($n=95$), 公務員($n=7$), 自営業($n=32$), その他($n=49$)
 - 既婚($n=221$), 未婚($n=115$), 離婚($n=13$)
 - こどもなし($n=163$), こどもあり($n=188$)
 - 顧問($n=70$), 監督($n=101$), アシスタントコーチ($n=111$), その他($n=44$)
 - バスケットボール($n=82$), 野球($n=73$), サッカー($n=30$), 陸上($n=26$), バレーボール($n=14$), ソフトボール($n=14$), テニス($n=13$), 空手($n=13$), 柔道($n=12$), 剣道($n=11$), ラグビー($n=9$), 体操($n=2$), 卓球($n=4$), アイスホッケー/フィールドホッケー($n=3$), 弓道($n=5$), バドミントン($n=5$), 水泳($n=3$), クライミング($n=3$), その他($n=10$).

方法 - 尺度 -

10

- | | |
|---|--|
| <ul style="list-style-type: none"> □ 基本情報 □ ソーシャルサポート(小牧・田中, 1993) <ul style="list-style-type: none"> □ 15項目($\alpha=.95$) <ul style="list-style-type: none"> ■ 1=そう思わない ■ 5=そう思う □ ワークライフバランス(Netemeyer et al., 1996) <ul style="list-style-type: none"> □ 10項目($\alpha=.91$) <ul style="list-style-type: none"> ■ 1=全く思わない ■ 7=非常にそう思う | <ul style="list-style-type: none"> □ 性差別への意識 (Foley et al., 2005) <ul style="list-style-type: none"> □ 4項目($\alpha=.80$) <ul style="list-style-type: none"> ■ 1=全く思わない ■ 5=非常にそう思う □ コーチング効力感 (Feltz et al., 1999; 町田ほか, 2012) <ul style="list-style-type: none"> □ 24項目($\alpha=.96$) <ul style="list-style-type: none"> ■ 1=全く自信がない ■ 5=非常に自信がある |
|---|--|

方法 - 手続き -

11

- 筆頭著者所属機関の倫理委員会が研究計画を承認.
- 質問紙項目の精査 ($N = 25$)
- オンライン($n = 155$) / 紙アンケート ($n = 231$)
- 500円のAmazon ギフトカードと報告書
- フォーカスグループ・インタビュー

結果: コーチング効力感と個人及び環境要因の関係

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13
1.コーチング効力感													
2.ソーシャルサポート	.02												
3.ワークライフバランス	-.04	-.15**											
4.ライフワークバランス	-.07	-.11*	.52***										
5.性差別への意識	-.11*	.01	.32***	.42***									
6.指導に費やす時間(時間/週)	.24***	.02	.12*	.03	-.08								
7.指導人数(人)	.25***	.02	.09	.08	.03	.20**							
8.競技歴(年)	.31***	-.08	-.12*	.01	-.15	-.05	.06						
9.指導歴(年)	.35***	.00	.00	.07	-.05	.10	.25***	.42					
10.同性の指導者から指導を受けた経験 (0=ない, 1=ある)	.22***	-.06	-.04	.00	-.11	.09	.06	.35	.04				
11.同性の指導者との指導経験 (0=ない, 1=ある)	.15**	-.04	.07	.03	-.01	.07	.09	.05	.08*	.10*			
12.指導者講習会への参加頻度(回/年)	.34***	-.06	.02	.01	-.02	.09	.17**	.16***	.30	.08	.08		
13.報酬の有無 (0=ない, 1=ある)	.05	-.08	.10	.02	.00	.31***	.07	-.10	-.07	.04	.11	.08	
14.性別(0=男性, 1=女性)	-.14*	.16**	-.02	-.08	.17**	.02	-.09	-.19	-.12***	-.29***	-.35***	-.12*	.30***

12

結果

コーチング効力感, 環境および個人要因の男女比較

	女性		男性		<i>t</i>
	<i>M</i>	<i>SD</i>	<i>M</i>	<i>SD</i>	
コーチング効力感 (5 - 25)	12.52	2.58	13.55	3.00	-2.58**
ソーシャルサポート(1 - 5)	3.57	0.83	3.27	0.75	2.90***
ワークライフバランス(2- 14)	6.81	12.43	6.95	2.45	-.42 n.s.
性差別への意識 (1 - 5)	1.89	0.80	1.57	0.71	3.35***
指導に費やす時間(時間/週)	15.83	8.44	15.67	10.44	-0.12 n.s.
指導人数(人)	28.62	21.06	40.17	55.36	-2.66 **
競技歴(年)	11.90	7.66	17.04	11.74	-4.23***
指導歴(年)	6.00	6.85	8.71	8.23	-4.25***
指導者講習会への参加頻度(回/年)	1.16	1.66	1.76	2.63	-2.75**

13

結果:

コーチング効力感, 環境および個人要因の男女比較

	女性		男性		χ^2
	ある	ない	ある	ない	
同性の指導者から指導を受けた経験	48	18	249	6	47.07**
同性の指導者との指導経験	44	21	233	20	33.99***
報酬の有無	42	28	74	186	24.0***

14

結果: コーチング効力感と個人及び環境要因の関係 Stepwise Regression (性別を共変量として)

	B	SEB	β	R ²
指導者講習会への参加頻度(回/年)	.31**	.06	.27**	.33
競技歴(年)	.04*	.02	.16*	
指導に費やす時間	.05**	.02	.17**	
指導歴(年)	.06**	.02	.17**	
同性の指導者から指導を受けた経験(0=ない, 1=ある)	1.12*	.49	.13*	
指導人数	.01*	.00	.12*	
ライフワークバランス	-.27*	.13	-.11	

R² changes not significant

	B	SEB	β	R ²
指導者講習会への参加頻度(回/年)	.31**	.06	.27**	.33
競技歴(年)	.04*	.02	.16*	
指導に費やす時間	.05**	.02	.17**	
指導歴(年)	.06**	.02	.17**	
同性の指導者から指導を受けた経験(0=ない, 1=ある)	1.12*	.49	.13*	
指導人数	.01*	.00	.12*	
ライフワークバランス	-.27*	.13	-.11	
性別(女性=1, 男性=0)	-.19	.39	-.03	

考察

16

- 指導者講習会への参加頻度, 競技歴, 指導にかかる時間, 指導歴, 同性の指導者から指導を受けた経験, 指導人数が, 現役スポーツ指導者のコーチング効力感のポジティブな情報源になり得る可能性を示唆
 - 体育学専攻学生のコーチング効力感の情報源と類似
 - 同性の指導者から指導を受けた経験, 指導経験, 競技歴(町田ほか, 2013)
- ライフワークバランスは, ネガティブな情報源になり得る可能性を示唆
 - 更なる検討, 理論の構築が必要

考察

17

- コーチング効力感に男女の違いを確認
 - 女性の少ない分野において, 女性が男性よりも効力感を低く見積もる傾向
(e.g., Clifton & Gill, 1994; Lirgg et al., 1996; Machida et al., 2012; 町田ほか, 2013)
 - 情報源へのアクセスの少なさが効力感の違いに影響?
(Betz, 2007; Hackett & Betz, 1981; 町田ほか, 2013)
 - 指導者講習会への参加頻度, 競技歴, 指導に費やす時間, 指導歴, 同性の指導者から指導を受けた経験, 指導人数
 - 更なる検討が必要

考察

18

- 男女のスポーツ指導者を取り巻く環境の課題
 - 報酬の有無
 - 65% (n=215) が報酬なし
 - サポートの体制
 - 性差別への意識
 - 女性 > 男性
 - 指導者講習会参加の機会
 - 37% (n=122) が年に0回の参加



Image courtesy of renjith_krishnan/ FreeDigitalPhotos.net

考察

19

- スポーツ指導者のコーチング効力感を高めるには？
 - 指導者のロールモデル
 - 指導の機会
 - 指導者講習会参加の機会
- 女性のスポーツ指導者への積極的な機会の提供・社会的支援
- スポーツ指導者を取り巻く環境の改善

20

Questions or Comments?

町田萌(順天堂大学)

Email: moemachi@juntendo.ac.jp



この研究は、笹川スポーツ財団の『笹川スポーツ研究助成』の助成金を受けて実施しています(研究番号#130A1-008).